

プトの暦法で、一年を365日とする標準暦は、マクノートン氏は比較的后代のことだとしてゐるが、之れは怪しい。むしろ、エジプトの第五第六王朝時代に此の暦法の記載があり、又、第6王朝の Pepi 第二世のピラミッド文書中にも明瞭に5祭日の記録がある。多くのエジプト學者は、此の365ケ日の標準暦法を、むしろ王朝以前と見てゐる。

尙ほ、今後、どんな意見が同誌上に發表されるか、判らないけれど、しかし、大體に於いて、“天秤星座”なるものは、パロビン以來、永く“蝸座”の一部のやうに取り扱はれ、獨立したのは比較的后代であることだけは疑ひないやうである。

上に書いたエジプトの“トレミ1王朝”といふのは、紀元前323年にアレキサンダ大王が死して後に起つた Ptolemy 第一世 (Soter) 以後、クレオパトラ女王(前30年死)に至るまで、前後293ケ年間を言ふのであるが、此の間に15代の王が交代してゐる。天文史上には、ギリシャ天文學の完成者として Claudius Ptolemy といふ大學者があるが、之れとエジプト王とは別人である。尙ほ、このトレミ1王朝の人物中、多少でも天文に関連するのは、トレミ1第三世 (Euergetes, 紀元前246—221年治世) の王妃 Berenice であらう。今も尙ほ吾々が用ゐてゐる星座の中に Coma Berenices (ベレニスの髪) といふのがあるが、之れは王妃ベレニスがトレミ1王のシリア遠征の戦勝を神かけて祈つて、Zephyrium の Arsinoë Aphrodite 神に記念として捧げた髪であると傳へられ、神殿中から此の髪が盗まれたので、サモス島の天文學者 Conon が、天空を指して、星座中に此の“髪”を見出したといふことになつてゐる。

黄道に12ケ月の星座が列ぶやうになつた以前に、只の6ケの星座がパロビンによつて認められてゐたことが一般に信ぜられてゐる。其れは、“牛”と“蟹”と“乙女”と“蝸”と“山羊”と“魚”とであつたといふ。

歐洲戰亂中の天文學

戦争のため、書物や研究報告書は來ないし、諸所の學會も休日の状態である。只、今日、觀測をし得る微妙な地位にあるのは(日本やアメリカのほかは)、ベルギーと、ロシアと、イタリアのみといふ有様に、初めの間は見えた。しかるに、戦争も半年たつて、激しい戦闘が國內に展開しない様子に多少安心したもののか？ドイツあたりでも、やはりかなり良い觀測や研究をやつてゐるし、諸報告や、書物なども出してゐる。英佛あたりも亦此の點に於いて負けてゐない。不思議と言へば、不思議な戦争である。